

「シスターキャサリンの自己紹介と気候危機についての活動」

シスターキャサリン・レイリーはメリノール会のシスターで、1968年から日本で働いている。

国立がんセンターの小児病棟や、アルペ難民センターでの奉仕に加え、全世界中の人々が直面している、「気候変動危機」に関するセミナー開催と支援に携わっている。シスターキャサリンは、2019年、東京で開催されたアル・ゴア元副大統領の「クライメート・リアリティ」ワークショップに参加している。

また教皇フランシスコの「ラウダート・シ」の観念に立ち、「私達はキリスト教徒として、次世代の子供達と地球の未来のために、特にこの気候危機に対応する緊急の責任を担っている。」としている。

境野信氏（後述）とともに、いくつかの教会や学校、市民団体で講演を開催しており、最近では麴町聖イグナチオ教会で行っている。

シスターは、「自然の恵みにとても恵まれているこの湘南エリアで、気候危機について教会の皆さまと分かち合い、考えてみたい。」と真摯に願っている。

「境野信氏による講演内容の概要」

世界中で高温、早魃、大型台風、洪水などの異常気象が頻発しています。特に、直近の2年は急激な気温上昇があり、2年連続で世界最高気温を記録し、一昨年は1.48℃上昇、昨年は1.60℃上昇と、ついにパリ協定の気温上昇の上限目標1.5℃を超えました。地球熱暴走のティッピングポイント（臨界点）が間近となり、生物絶滅が危惧されます。全世界の気候危機への最速・最大限の対策が待ったなしです。

科学者(Climate Action Tracker)の報告に基づく、パリ協定1.5℃目標に整合した日本の二酸化炭素削減は、2030年までに71%削減、2035年までに81%削減、2040年までに93%削減、2050年には100%以上の削減となっています。

しかしながら、2025年2月18日に決定した日本政府の第7次エネルギー基本計画は、2035年の温室効果ガス削減目標は60%と第6次からの改善はなく、かえって原発推進政策と改悪しました。米国トランプ政権がパリ協定を離脱したため、日本は自分から積極的に何もせず世界動向の様子見となり、先進国としての責任を放棄したものです。

政府が動かないのなら、市民が立ち上がる必要があります。『世界の市民が連帯し、何をなすべきか』を提示したいと思います。

さかいのまこと
境野信氏

理学博士(化学)、クライメート・リアリティ・リーダー(※)

神奈川県地球温暖化防止活動推進委員

(※)クライメート・リアリティ・プロジェクト(CRP=The Climate Reality Project)は気候変動対策に取り組む世界的なイニシアティブで、リーダーはその内容を伝えるための一定の研修を受けた有資格者)

せもとまさゆき
瀬本正之神父

イエズス会司祭。日本カトリック司教協議会「ラウダート・シ」のデスク秘書。「ラウダート・シ」の共同翻訳、「ラウダーテ・デウム」の翻訳もされた。境野氏、シスターキャサリンとともに教会や学校、市民団体での講演、2024年には麴町聖イグナチオ教会および大和教会にて講演を行った。

Sr. キャサリン・レイリー

メリノール宣教会修道女。1968年に来日し、1969年より鎌倉で宗教対話に取り組む。

国立がんセンター中央病院の小児病棟でのカウンセリング、福島原発事故被害者やアルペ難民センターの利用者へのカウンセリングに従事。

2019年にはアル・ゴア氏のクライメート・リアリティ・ワークショップに参加。